

「第4回専門員会」に関する傍聴者の御意見と傍聴者の質問に対する回答など

氏名	御意見	質問に対する回答など
1 富樫 幸一	<p>河口堰運用後、再び木曾三川公園近くでマウンドができているようですし、もう一つは、河口堰の直上、下流動でもヘッドロが1～2m堆積しています。</p> <p>堰周辺の堆積は、堰のピアによる洪水のせきよけを防ぐためのものだったにもかかわらず、しゅんせつが行われていないのは疑問です。しかも、2004年23号台風では、忠節地点毎秒8,000立方メートルの洪水が流下しています。この点もぜひご検討ください。(今本先生がいわれたとおりだと思います)</p> <p>藤田先生が最後の方で言われたように、151cmマウンドの堆積がもし問題がないのなら、やはり、しゅんせつ自体の意味が問題となるように思われますが。</p> <p>海側が土砂を供給するわけではなく、上流から供給されたものが流動しながら、やはり河口堰直下で堆積するメカニズムを証明することがポイントではないですか？</p>	
2 近藤 ゆり子	<p>1. 長良川河口堰は「治水」を主目的とする施設か？</p> <p>1) 長良川河口堰は、水資源開発促進法に基づき、水資源開発基本計画に位置づけられた水資源施設である。ゆえに水資源開発公団(現水資源機構)の事業となったのだ。</p> <p>「治水」面の目的は、「特定施設」として付随的に存在するにすぎない。</p> <p>2) 長良川河口ダム構想と呼ばれた1960年代から、岐阜県の市民の間には、長良川全体の自然生態系への悪影響の懸念が存在した(「長良川を自然教育河川に!」)。この頃、「河口ダム」は、ひたすら「都市用水を補給する水瓶」として説明されていた。</p> <p>3) 1976年の安八決壊水害を契機に、長良川河口堰の「治水」効果が積極的に言われるようになった、と聞く。が、岐阜県に住む一般市民の感覚(記憶、印象)では、「治水」が盛んに喧伝されたのは、1980年代後半、河口堰反対運動がマスコミに積極的に採り上げられるようになってからである。「浚渫するから潮止め堰が必要」という理屈は、「後付け」「牽強付会」という印象を免れなかった。「感潮域上流端より遙か下流を浚渫することが洪水対策になるとは思えない」「下流に河川横断構造物を作るとはむしろ危険ではないか」という住民の素朴な疑問に対してきちんとした説明はなかった。</p> <p>4) 1989年、岐阜県知事となった梶原拓氏は、副知事時代から親しくしていた故K・K氏に「どんなことを言ってくれても良いけど、長良川河口堰に反対するようなことだけは口にしてくれるな」と言ったと聞いた。河口堰は「岐阜県最大のタブー」だったのだ。</p> <p>こうした雰囲気の中、岐阜県民に対して河口堰の必要性に係る開かれた説明は行われてないままであった。情報公開制度もない時代、疑問は封じ込められた。</p> <p>長良川河口堰の主目的が「治水」だ、というのは、岐阜県民の一般的感覚にはそぐわない。</p> <p>2. 長良川河口堰は「治水」に役立っているのか？</p> <p>長良川河口堰建設の根拠とした議論はおよそ以下のようなものと理解している。</p> <p>洪水を流下させる河道を確保するために浚渫する必要がある</p> <p>浚渫により(15km付近の)マウンドがなくなるので塩水が上流まで遡上する</p> <p>水稻の耕作障害(塩害)の懸念がある</p> <p>( 潮止め堰として河口堰が必要である )</p> <p>長良川河口堰は洪水調節施設ではない。「治水」施設として役立っているとしたら「潮止め堰」としてであり、前提中の前提として「洪水を流下させる河道を確保するために浚渫する必要がある」が成り立たねばならない。しかし、この部分がきちんと説明されていない。</p> <p>河口堰建設の際に「浚渫が必要」とされた部分の河床は、2004年23号台風出水時点で、浚渫前と同程度に上がっている。「(浚渫後、今までに)河床が上がっているが、『治水』面で問題はないのか?」という沿河住民の疑問には応答がない。2004年23号台風出水で8000m<sup>3</sup>/S流れたというなら「浚渫は不要だ」ということではないのか? 浚渫による河積拡大(確</p>	

	<p>保)が必要なら、上がってしまった河床に対する何らかの方策が必要になるはずだ。2008年の木曾川水系河川整備計画を見てもそれに相当する記述はない。</p> <p>つまり、は成り立たない、「治水」において河口堰は不要だ、ということと考える。</p>	
3 松原 秀臣	<p>1. 海水が楔形になって河川を遡上していくが、それがどこまで上がるかはその時々流下する水の流量や地形によって、また潮の干満によって様々であるということは分ります。この日常的な変化はイベントの発生時を含めて通年(常時)観測しなければ判明しないはずで、国交省の30km地点まで海水が遡るとの説明は藤田委員のスライドにあった塩化物イオンがある上流地点でほぼ0になるということと整合するのでしょうか。</p> <p>2. 今本委員の言われる、「河床の浚渫をした後、その河床の状態を維持するための継続的な浚渫がされていない」件は確かに疑問がある。現時点では流下する細粒土砂で浚渫効果が失われているということであり、堰の上流部がヘドロ化し生物生態系が壊滅状態になっている事実からして浚渫の意味を理解することは不可能といえる。</p> <p>3. 今回の会議では上記に関連する貧酸素水塊の挙動について若干の説明がありましたが、これは治水の問題ではなく生物生態系の問題と思われます。生物の現況についてはシジミや藻類を代表として説明されていますが、生態系に関する検証は極めて不十分と言えます。水生昆虫や鳥類を含めた検証がないのは片手落ちです。</p> <p>4. 堰より上流部に出来る河床のマウンドはどのようなメカニズムで生成するのかに関する説明はありませんでした。土壌コアでどんな組成かについては分りますが、海水の遡上が影響しているのかどうかははっきりしていません。海水は堰で止められている訳ですから海水の影響で河床地形に変化が出ることはないと思われます。</p>	<p>&lt;奥田氏のコメント&gt;</p> <p>貧酸素水塊の発生の機構と、その生態系への影響は独立して調べる必要がある。(もちろん両者の関連性はあるが)</p>
4 市野 和夫	<p>第4回専門委員会で河口付近の浚渫が治水上有効であるか否かについて藤田委員と今本委員の間で論争があった。その論争の中で藤田委員が根拠として示した洪水時における塩化物イオン濃度の城南地点データについての意見を述べる。</p> <p>1. 流体の動きは地球自転の影響を受けている。</p> <p>流体の動きは地球自転の影響を受けており、北半球では、進行方向の右側にずれることを考慮する必要がある。洪水時に河口から流出する河川水は右寄りに流れ、逆に海水は川の左岸寄りを遡上するから、洪水時の河口付近における海水と河川水の動きについて把握するためには、河口の右岸側の城南地点だけの観測データでは不足である。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>	<p>&lt;奥田氏のコメント&gt;</p> <p>秒速数メートル程度の流れでは、コリオリ力波動の数千分の1程度であり、短時間ではその影響は微弱である。(通常の河川流では無視できる)</p> <p>しかし、大規模な流れ、海流や大気流では、その影響は顕著であり、数値的、実測的に確認されている。</p>
5 松島 秀夫	<p>添付の朝日新聞を読み、御社の下記のホームページを見せてもらいました。下記の質問があります。</p> <p><a href="http://www.pref.aichi.jp/0000044419.html">http://www.pref.aichi.jp/0000044419.html</a></p> <p>朝日新聞記事は長良川の川底をさらう浚渫に洪水を防ぐ効果があったかどうかについて、委員の先生が意見を述べたものでした。</p> <p>河口部の流れは、一見すると河川と池モデルのようにみえますが、海はとても大きな池であり、水位上昇や流入抵抗、塩分クサビの抵抗は限りなく無視でき、水理計算上、海の影響を無視します。この計算の結果、河口から40kmの岐阜市の洪水水位は、浚渫の影響で下がりました。</p> <p>この点について、藤田先生は「浚渫は対策として有効だった」と発言されたと理解します。</p> <p>また、今本先生の「河口は潮位の影響を受けるので、浚渫しても水位を下げる効果は低かった」の発言は、その通りで、河口域の水位は潮位の影響が大きいことも理解します。</p> <p>両先生とも、藤田先生は中・下流域、今本先生は河口域に対して、正しい見解を述べたと理解します。</p>	

また、上記の水理計算より藤田先生の会議配布資料の河口域での洪水の流れ方に同感します。今本先生の配布資料「検証長良川河口堰治水編 2011年8月22日」もほとんど同感します。

問題は、今本先生の配布資料「検証長良川河口堰治水編 2011年8月22日」の「浚渫しなくても河積は確保されていた」です。

河川水理計算において、一般的に前述のように海の影響を無視して、水位計算をします。水位計算をした人はわかりますが、連続して河積がないと高水位は下がりません。洪水対策として、計画的な浚渫は必要であると理解します。

地盤沈下と砂利採取という計画通り行われなかったかもしれない現象を期待するのは危険だと理解します。

今本先生のコメントをいただけますと幸いです。